

日本映画放送株式会社 第 52 番組審議会議事録

1. 開催年月日：平成 28 年 7 月 19 日（火）15 時～16 時
2. 開催場所：東京都千代田区有楽町 1-1-3 東京宝塚ビル 15 階  
日本映画放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席：委員総数 8 名 / 出席委員数 8 名  
出席委員(順不同、敬称略)：菊地 実・鈴木 嘉一・川本 三郎・坂井 保之・  
曾根 和子・田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正  
放送事業者側出席者：常務取締役 佐藤 信彦  
編成制作部 槌谷 昭人  
編成制作部 足立 一樹  
編成制作部 兼子 昭仁  
番審担当 堤 靖芳  
清水 明 (記)

4. 議題 (1) 審議事項

日本映画専門チャンネル「7.29『シン・ゴジラ』公開記念《ゴジラ ファーストインパクト》」について

(2) 報告事項

時代劇専門チャンネル「銀幕の時代劇スター列伝」について

5. 議題 (1) 概要

日本映画専門チャンネルでは、6～8 月の 3 ヶ月連続で「7.29『シン・ゴジラ』公開記念《ゴジラ ファーストインパクト》」と銘打ち、様々な世代の著名人が思い出のゴジラ作品を選び、その本編放送に併せて、ゴジラに関する記憶を交えて作品を語る特集を放送している。ゲストは『シン・ゴジラ』出演者などを含め計 10 名。ゴジラとの初めての遭遇、忘れ難い体験、衝撃の思い出など、ゴジラがいかに世代を超えて愛され続け、どんな意味を持ってきたのかを知る企画である。

今回の審議では、6 月放送の宇崎竜童・橋本マナミ出演分を観て、審議を行った。

**【審議 POINT】**

- 番組は、ゴジラシリーズ作品に新たなパースペクティブを与えるものとなっているか。
- 番組は、『シン・ゴジラ』特集編成と併せて、チャンネルの盛り上げに貢献し、映画ファンの注目を集める企画となり得ているか。

## 6. 議題(1)審議内容

- ・ゴジラを享受した第1世代にとって、懐かしく良い番組だと思う。またゴジラは、映画や世代を超えた“ゴジラ文化”となったと思うが、その自分の思いが納得できた。
- ・ゲストの宇崎が「第1作目の『ゴジラ』は怖くてもう見たくないと思った」と語っていたが、私も同じ。当時の子供には、『ゴジラ』は戦争映画であり、空襲映画であり、恐ろしかった。宇崎は「ゴジラが破壊のためにやって来たのではなく、メッセージを伝えるためにやって来た天からの使いのようだ」とも言っていたが、いちいち頷いた。
- ・著名人にシリーズを振り返らせるのはありがたい企画、手法だ。しかし、宇崎は音楽家だけあり、『ゴジラ』のテーマソングに関する独自の視点・分析など素晴らしかった。
- ・橋本がモスラの羽化シーンを「幻想的で美しい」と言ったのには、新しさを感じた。また、宇崎の良い映画音楽とは映画を邪魔しない音楽との自説や、良い映画の彼なりの定義、自身がゴジラシリーズに出演した時の裏話など興味深かった。過去の作品、登場人物、監督、映画館等の注釈や紹介写真の使い方も非常に適切だ。
- ・ゲストによって番組の形式が異なり、長さも統一されておらず、トーク番組として不揃いな印象があった。また、本編前にゲストが感じた“ファーストインパクト”や作品に対する思い入れを、もう少し聞かせてから本編に入った方が、企画の主旨がより分かりやすかったかもしれない。
- ・ゴジラは、ある種の普遍性があるスーパーコンテンツだと思う。新作あわせの番組放送はタイムリーでもある。橋本の起用は、ゴジラへのハードルを下げる役目としては適役。
- ・1作目の『ゴジラ』は素晴らしい。モノクロゆえの陰影の濃さも成功に寄与している。戦後の東京を知ることが出来る作品でもある。ところで、今回のゲストはどういった基準で選んだのか。
- ・第1作のメッセージに感動し、強いファーストインパクトを受けた。しかし、ゴジラは子供向け映画となり、私は途中で挫折した。今回の番組はゲストの人選も良く、ゴジラ史の再発見になり、私のような挫折組でも、シリーズとしてのゴジラにもう一度興味を持てた。『シン・ゴジラ』の盛り上げにもつながるだろう。

### <事業者回答>

- ・ゴジラ映画ファンは、世代も嗜好も、作品や制作年代等によって異なるので、ゲストはゴジラに詳しい人ばかり集めるのではなく、様々な人に語ってもらった。若い世代の中にゴジラファンをつくらないと将来につながらない、という危機感があったからだ。番組はゲスト次第で特色が変化しても良いと考え、トークの長さや手法を統一しなかった。7月番組には大月俊倫、佐野史郎などゴジラマニアが出演し、大きな反響を得ている。
- ・『ゴジラ』のメッセージを視聴者に理解してもらえたのではないかと思う。この特集でゴジラがメディアで取り上げられ、過去作の『キングコング対ゴジラ【完全版】4K デジタルリマスター』についても問い合わせが多数あったのは良かった。

#### 7. 議題(2)報告事項

今年4月から時代劇専門チャンネルの新映画企画「銀幕の時代劇スター列伝」を放送開始した。毎月ひとり往年の時代劇スターを特集し、代表作をお送りしている。視聴者からの電話や、ホームページへの問い合わせ・リクエストがたくさんあり、大きな手応えがある。

8. 連絡事項：次回番組審議委員会は、平成28年9月20日(火)15時より開催。